

日本政治学会 会報

The JPSA News

NO. 13

May 1987

IPSA世界大会日本開催問題の経緯

渉外委員長 内田 満

IPSA世界大会を日本で開催する問題は、周知のように日本政治学会の長年にわたる懸案であり、歴代理事長・理事会が苦慮してこられた問題である。1982年3月29日から4月1日までの4日間東京で開かれたIPSA円卓会議が、このような「宿題」に対する1つの解答であったことは、いうまでもない。しかし、日本での世界大会開催へのIPSA執行委員会の要望は、その後も継続して日本政治学会に伝えられ、東京円卓会議の成功は、この要望をいっそう強めてきた観があった。さらに、1985年にパリで開かれたIPSA第13回世界大会に有賀弘、武者公路公秀両会員と私が、日本政治学会を代表して出席したおり、フォン・バイメ会長その他の執行委員から、日本での世界大会開催について強い希望が重ねて表明されたのである。

このような事態を背景に、1986年10月4日の日本政治学会理事会において、西川知一理事長から、「IPSA世界大会を速くない将来に日本において開催することの可否と問題点を検討するための委員会を設置すること」を次期理事会への申し送り事項とすることが提案され、承認された。松下圭一理事長の下に組織された新理事会が、ただちに「IPSA世界大会検討委員会」の設置をきめ、有賀弘理事を委員長に選任して、IPSA世界大会の日本での開催をめぐる諸問題の検討を進めることになったのは、これをうけてのことである。こうして、検討委員会は、数回の会議を経て「1991年の第15回世界大会の日本開催の受け入れ」の方向で検討結果を集約し、この検討委員会報告について、1987年3月11日開催の緊急懇談会、3月28日の定例会の再度にわた

って審議した理事会は、日本政治学会がIPSA世界大会の「1991年度の開催を検討中」である旨、IPSA会長である武者小路公秀会員を通じてIPSA執行委員会に伝達することを決定した。

この中で、1991年世界大会の開催地を決定するIPSA執行委員会は、1987年4月3日、4日の両日カナダのオタワで開かれ、91年世界大会の開催地をブエノスアイレスに決定した。アルゼンチンが、すでに1985年以来開催受け入れの強い意向を表明し、その方向で準備を進めてきていたからである。また、この執行委員会で、94年世界大会の開催地として西ドイツのハンブルグが立候補した。諸般の事情に照らして、94年大会のハンブルグ開催の可能性は、きわめて高いとみられている。

以上のような次第で、現状では、91年、94年のIPSA世界大会の日本での開催の見込みは、きわめて小となった。

1987年度研究会企画について

企画委員長 堀江 湛

日本政治学会研究会は、年に一度、わが国の政治学者が一堂に会する研究集会です。したがって、そこで取り上げられるテーマは政治学のさまざまな研究領域を幅広くカバーすることが必要ですし、時代の要請や学説の新しい展開に応じたホットな問題と同時に、多くの先学によって研究の積み重ねられてきた古くからの息の長いテーマについての研究成果の発表も重視していかなければならないと思います。政治学会の会員数の増加と、研究会への出席が著しく増えているという状況を踏まえながら、今年度の研究会の企画を練ってみました。

第一日目と第二日目の午前中に行われる共通論題については、会員の研究領域や問題関心の多様性を考えて、第一日目には政治学のリサーチプロ

1986年度第3回理事会記録

ンティアであり、特に分析技法の発展の著しい投票行動の領域を取り上げてみました。「日本」という限定をつけたのは報告者や討論者の討議の焦点をしぼるためであって、報告・討論においては分析内容やリサーチテクニックをめぐって諸外国との比較、新しい学説や技法への言及がなされることを期待しています。第二日目の共通論題で「大正期における自由主義と民主主義の思想形成」の問題を取り上げたのは、われわれの思想的原点をさぐるこの古くて新しい問題に最近の政治史や思想史研究にみられる新しい研究技法を駆使して、もう一度光を当て直してみるという作業を期待したからに他なりません。

分科会においては、思想史の領域ではサン・シモンとウェーバーという近代ヨーロッパにおけるフランスとドイツの二人の巨人を取り上げ、これを社会思想というよりも政治思想という角度から比較分析することを企画してみました。現代政治分析の領域では公共政策に関する昨年、一昨年の研究会における報告を進展させ、今年は公共政策の形成における政党と官僚制の関係を問うてみたいと思います。また政治史の領域で自由民権運動の再検討を、比較政治学の領域ではNICSに焦点を当てて政治発展とデモクラシーの問題を検討してみたいと思います。さらに国際政治学の領域では外交政策アプローチと国際システムアプローチ、行政学の領域では現代都市行政の課題を取り上げてみました。また、最近の政治分析の最も新しい手法である公共選択アプローチと最近のホットなイシューである最小国家論の問題を結びつけて、公共選択論と最小国家論という分科会を設けてみました。

共通論題や分科会のテーマに関しては、これで十分だとは思いませんが、企画委員会としてはできるだけ片寄ることなく会員各位の問題関心に対応されるようなテーマの設定をしたつもりです。また、司会・報告者・討論者については、最近このテーマを研究課題として取り組んでおられる方を中心にお願ひしました。

お忙しいなかを司会・報告・討論をお引き受け下さった会員、あるいは非会員の御好意に対して、企画委員会として厚く御礼申し上げたいと思います。また、会員の各位には研究会に是非奮って御参加下さり、討議を深め、今年の研究会が成功裏に終るよう御協力頂きたいと思います。

3月28日に法政大学で行われた1986年度第3回理事会において、次の各事項が報告、審議、承認、あるいは決定された。

〔顧問の推薦について〕

松下理事長から、慣例により、西川前理事長を顧問に推薦したい旨の提案があり、了承された。

〔委員会報告〕

①企画委員会

堀江企画委員長（1987年度）より、下記の企画委員及び企画原案が報告され、承認された。

〈企画委員〉

秋山和宏（日本大学）、猪口孝（東京大学）、内田健三（法政大学）、宇都宮深志（東海大学）、大谷博愛（拓殖大学）、加藤秀治郎（京都産業大学）、鴨武彦（早稲田大学）、川野秀之（玉川大学）、北西允（広島大学）、楠精一郎（高崎経済大学）、公平慎策（杏林大学）、佐竹寛（中央大学）、島袋邦（琉球大学）、坪井善明（北海道大学）、西原正（防衛大学校）、荻原宜之（独協大学）、三宅一郎（神戸大学）、村松岐夫（京都大学）、利光三津夫（慶応義塾大学）

（アイウエオ順）

〈企画原案〉

第1日目

共通論題A 日本の投票行動

司会 三宅一郎（神戸大学）
報告 間場寿一（奈良女子大学）
小林良彰（慶応義塾大学）
討論 杉 正夫（東京国際大学）
児島和人（東京大学）
公平慎策（杏林大学）

分科会A 公共選択論と最小国家論

司会 山川雄巳（関西大学）
報告 依田 博（神戸大学）
曾根泰教（慶応義塾大学）
討論 小林 公（立教大学）
黒川和美（法政大学）

分科会B 自由民権運動の再検討
 司会 毛利敏彦(大阪市立大学)
 報告 寺崎 修(駒沢大学)
 猪飼孝明(熊本大学)
 討論 松尾正人(東海大学)
 御厨 貴(東京都立大学)

分科会C 現代都市行政の課題
 司会 本田 弘(日本大学)
 報告 水口憲人(大阪市立大学)
 佐々木信夫(東京都庁)
 討論 加藤富子(松阪大学)
 田村 明(法政大学)

分科会D 外交政策アプローチと国際システムア
 プローチ
 司会 花井 等(筑波大学)
 報告 滝田賢治(中央大学)
 山本吉宣(埼玉大学)
 討論 白井久和(独協大学)
 高橋 進(東京大学)

第2日目

共通論題B 大正期における民主主義と自由主義
 の思想形成

司会 三谷太一郎(東京大学)
 報告 中村勝範(慶応義塾大学)
 宮本盛太郎(京都大学)
 討論 神島二郎(立正大学)
 伊藤 隆(東京大学)
 飯田泰三(法政大学)

分科会E 近代ヨーロッパ政治思想
 司会 佐竹 寛(中央大学)
 報告 藤原 孝(日本大学)
 中村孝文(武蔵野女子大学)
 討論 山下重一(國學院大学)
 藤原保信(早稲田大学)

分科会F 公共政策形成における政党と官僚制
 司会 内田 満(早稲田大学)
 報告 中野 実(茨城大学)
 岩井奉信(常磐大学)
 討論 中邨 章(明治大学)
 松崎哲久(自民党)

分科会G 政治発展とデモクラシー
 司会 荻原宜之(独協大学)
 報告 伊豆見元(静岡県立大学)
 藤原帰一(千葉大学)
 討論 西原 正(防衛大学校)
 小此木政夫(慶応義塾大学)

②年報委員会

三谷年報委員長(1989年度)より、下記の
 年報委員、並びにテーマ「近代化過程における政
 軍関係」が報告され、承認された。

<年報委員>

我部政男(琉球大学)、北岡伸一(立教大学)、
 酒井哲哉(北海道大学)、坂井雄吉(東京大学)、
 鈴木董(東京大学)、野上和裕(川崎市自治労セ
 ンター研究員)、広瀬克哉(日本学術振興会特別
 研究員)、藤原帰一(千葉大学)、御厨貴(都立
 大学)

③文献委員会

三谷文献委員長(1986年度)より、1985
 年度分の原稿を岩波書店に提出した旨、報告があ
 った。

今中文献委員長(1987年度)より、1986
 年度について、下記の文献委員により現在作業が
 進行中である旨、報告があった。

<文献委員>

山本隆基(広島大学)、高橋進(広島大学)、川
 崎信文(広島大学)、石井修(広島大学)*、佐
 藤幸男(広島大学平和研究センター)、市川太一
 (広島修道大学)、高城和義(岡山大学)、小畑
 隆資(岡山大学)、河合恒雄(愛媛大学)、石田
 正治(九州大学) *印は非会員

阿部文献委員長(1988年度)より、委員が
 ほぼ内定した旨、報告があった。

④渉外委員会

内田渉外委員長(1987年度)より、下記の
 渉外委員が報告され、承認された。

<渉外委員>

阿部斉(放送大学)、有賀弘(東京大学)、五百
 旗頭真(神戸大学)、猪口孝(東京大学)、内田
 満(早稲田大学)、鴨武彦(早稲田大学)、武者
 小路公秀(国連大学)、鈴木佑司(法政大学)、
 曾根泰教(慶応義塾大学)、矢野暢(京都大学)

〔決算〕

成沢常務理事より1986年度の決算報告(別掲)があり、木村監事及び岩重監事より監査報告がなされ、承認された。

〔予算〕

成沢常務理事より、1987年度予算案(別掲)が提案され、承認された。

〔次期理事選挙について〕

西尾選挙管理委員長より、下記の選挙管理委員及び理事選挙の日程について報告があり、承認された。また、選挙人名簿は4月1日現在で作成することを確認した。

〈選挙管理委員〉

岩野弘一(明治大学)、後藤総一郎(明治大学)、下斗米伸夫(成蹊大学)、新藤宗幸(専修大学)、鷲見誠一(慶応義塾大学)、高橋進(東京大学)、成田博之(横浜国立大学)、西尾孝明(明治大学)、西田照見(立正大学)、畠山弘文(明治学院大学)

〔会費未納者について〕

今後、規約第8条に基づき、毎年4月1日現在で、2年度分の会費未納者(毎年4月1日現在での確認のため、実質的には3年度分に相当する)については、督促の上、名簿を確定することに決定した。なお、元会員が会員に復帰するときには、前会員時の2年度滞納分をそえ、新入会員としての申込手続きを取ることを確認した。

なお、学会会費納入については、会員個人納入の原則に基づき、会員個人の所属する団体等による納入を認めないことを確認した。

〔事務局引継書類処分基準について〕

事務局の引継に伴う書類の処分基準として、以下の通りとすることが決定された。

	保存期間
領収書、振込用紙、解約済み通帳	5年
印 鑑	3年
会員名簿 (資料としての保存分を除く)	4年
会 報 (資料としての保存分を除く)	2年

〔学術会議会員選挙について〕

松下理事長より、第14期学術会議会員候補者選挙の日程並びに前回の暫定選出方法が報告され、次回理事会で選出方法を決定する旨の提案が行われ、了承された。

〔新名簿作成〕

内山名簿作成臨時委員会委員長より、10月の理事会までに新名簿作成のためのアンケート方式を提案する旨、報告があった。

〔総会・研究会開催校について〕

1987年度の総会・研究会(日本大学)の日程は10月3日～4日とすることが了承された。日本大学では、その準備が進行中である旨、中山理事より報告があった。

また、1988年度の総会・研究会(広島大学)は10月1日～2日に行なうことが承認された。また、1990年度の総会・研究会は熊本大学で開催することが内定した。なお、1989年度の開催校は未定。

〔IPSA世界大会について〕

松下理事長より、本年3月11日の緊急理事懇談会で行なわれた意見交換について報告があり、ついで内田渉外委員長・有賀IPSA世界大会検討委員会委員長より詳細な経過報告がなされ、審議に入った。審議の結果、種々の問題点はあるが、さしあたり開催反対がないことを確認の上、IPSA執行委員会に「1991年度の開催を検討中」である旨、伝えることが決定された。

〈IPSA世界大会検討委員〉

阿部育(放送大学)、有賀弘(東京大学)、五百旗頭真(神戸大学)、猪口邦子(上智大学)、内田満(早稲田大学)、下斗米伸夫(成蹊大学)、曾根泰教(慶応義塾大学)、高島通敏(立教大学)、高柳先男(中央大学)、田北亮介(龍谷大学)、成沢光(法政大学)、西尾勝(東京大学)、村松岐夫(京都大学)、山川雄巳(関西大学)、吉岡知哉(立教大学)

(事務局注:その後の経緯については、内田渉外委員長の「IPSA世界大会日本開催問題の経緯」を参照願います。)

学 会 二 五 一 又

1986年度日本政治学会予算・決算			
	1986年度 予算額	1986年度 執行額	
収 入 (R)	1. 前年度繰越金	5,995,362	5,995,362
	2. 会費収入	3,100,000	3,397,860
	3. 雑収入	150,000	161,982
	4. 年報特別基金返済	0	300,000
	収入合計	9,245,362	9,855,204
支 出 (E)	1. 研究会開催費	800,000	792,000
	A. 研究会準備金	600,000	600,000
	B. 報告者謝礼	200,000	192,000
	2. 委員会経費	420,000	420,000
	A. 年報委員会	100,000	100,000
	B. 企画委員会	140,000	140,000
	C. 文献委員会	120,000	120,000
	D. 渉外委員会	60,000	60,000
	E. 選挙管理委員会	0	0
	3. 理事会経費	50,000	45,628
	4. IPSA学会分担金	300,000	234,901
出 (E)	5. 事務局経費	770,000	668,580
	A. 理事長通信費	50,000	50,000
	B. 運営費	50,000	50,000
	C. 人件費	420,000	420,000
	D. 経常費	250,000	148,580
	6. 名簿作成積立金	150,000	150,000
	7. IPSA関係積立金	100,000	100,000
8. 選挙管理費	0	0	
9. 年報特別基金	300,000	300,000	
10. 会費発行費	350,000	199,030	
11. 予備費	6,005,362	170,000	
	支出合計	9,245,362	3,080,139
	差引残高		6,775,065

1987年度予算		
	予算額	
収 入 (R)	1. 前年度繰越金	6,775,065
	2. 会費収入	3,400,000
	3. 雑収入	160,000
	4. 年報特別基金返済	0
	収入合計	10,335,065
支 出 (E)	1. 研究会開催費	800,000
	A. 研究会準備金	600,000
	B. 報告者謝礼	200,000
	2. 委員会経費	450,000
	A. 年報委員会	100,000
	B. 企画委員会	140,000
	C. 文献委員会	120,000
	D. 渉外委員会	60,000
	E. 選挙管理委員会	30,000
	3. 理事会経費	50,000
	4. IPSA学会分担金	300,000
出 (E)	5. 事務局経費	770,000
	A. 理事長通信費	50,000
	B. 運営費	50,000
	C. 人件費	420,000
	D. 経常費	250,000
	6. 名簿作成積立金	150,000
	7. IPSA関係積立金	100,000
8. 選挙管理費	350,000	
9. 年報特別基金	300,000	
10. 会報発行費	350,000	
11. 予備費	6,715,065	
	支出合計	10,335,065
	差引残高	0

別会計(1) 名簿作成積立金	
収入	
前年度よりの繰越	204,323
本年度積立	150,000
銀行預金利息	2,360
計	356,683
支出	0
差引残高	356,683

別会計(2) IPSA関係積立金	
収入	
前年度よりの繰越	293,038
本年度積立	100,000
銀行預金利息	8,150
計	401,188
支出	0
差引残高	401,188

IPSA基金	
収入	
前年度よりの繰越	9,038,591
銀行預金利息	408,432
計	9,447,023
支出	0
差引残高	9,447,023

世界政治学会第14回大会
参加のよびかけ

猪口 孝(東京大学)

世界政治学会(IPSA)大会は3年ごと開かれる政治学者の集まりです。1988年8月28日から9月1日にワシントンで右記の内容で開催予定です。この大会は武者小路公秀教授が学会会長として責任を果たされる大会でもあります。わたしは大会組織委員長のH. K. Jacobson教授(ミシガン大学)の要請で、Sub-field Sectionsのひとつ、“Formal Models of International Politics”を招集する役目を果たすことになりました。ソ連社会科学アカデミーのAcademician German Gvishiani氏が共招集者です。具体的には5個のパネルを組織することになります。

戦争と平和という人類の歴史がはじまって以来の主題にフォーマルで、厳格で、より累積的にアプローチする研究をとりあげます。フォーマルな言語を使用することによって国境とかその他の障害を軽減しながら、国際政治についての地球的規模のコミュニケーションを高めることを期待しています。そのためにもできるだけ多様な視野からのフォーマル・モデルの提唱を期待しています。軍備競争、核拡散、交渉、貿易と関税、地域統合、戦略的相互作用、技術移転、対外援助、国家の盛衰、植民地主義、対外直接投資、軍事化、クーデター、認識と誤解、同盟、海外移民、テレコミュニケーション・ネットワーク、学習などのトピックがとりあげられるとおもいます。

積極的に参加されることを希望します。ご質問のある方も含めてどうぞご連絡ください。私にできるだけのことをしたいと思っています。

〒113 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学東洋文化研究所 TEL 03-812-2111
自宅 TEL 03-818-1686

XIV IPSA World Congress
Washington, D. C.
August 28th to September 1, 1988
Sheraton Washington Hotel

THEME: TOWARD A GLOBAL POLITICAL SCIENCE

Chairperson, Programme Committee:
Harold K. Jacobson
Center for Political Studies
Institute for Social Research
University of Michigan

MINI-PLenary SECTIONS

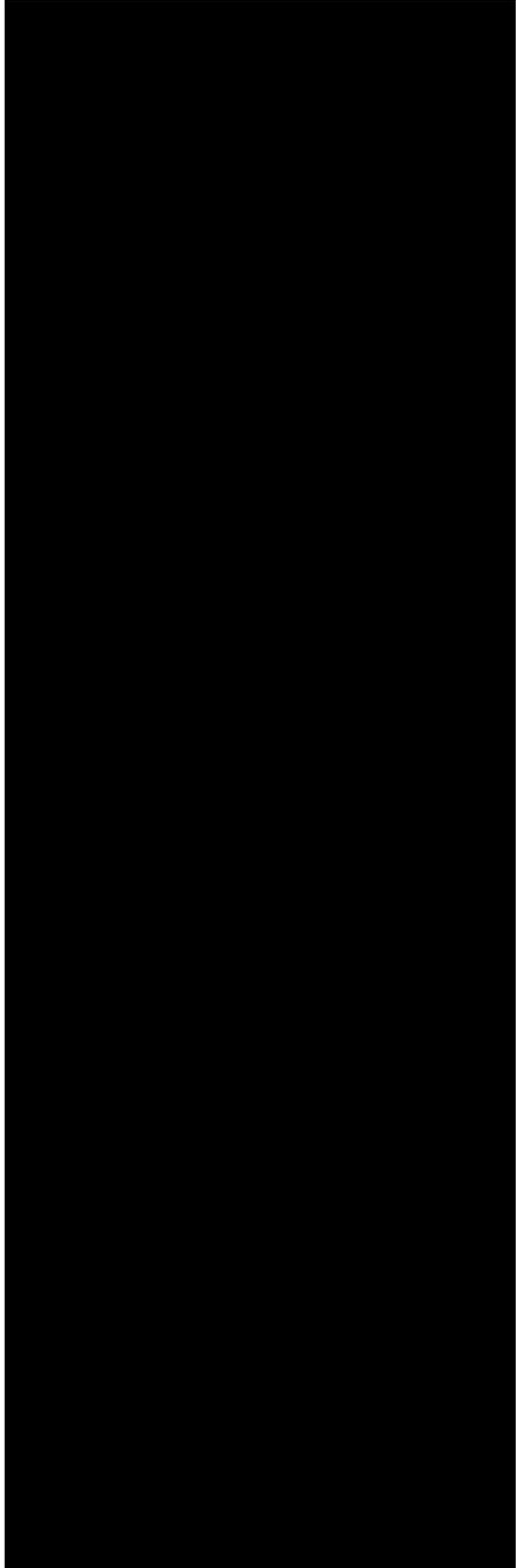
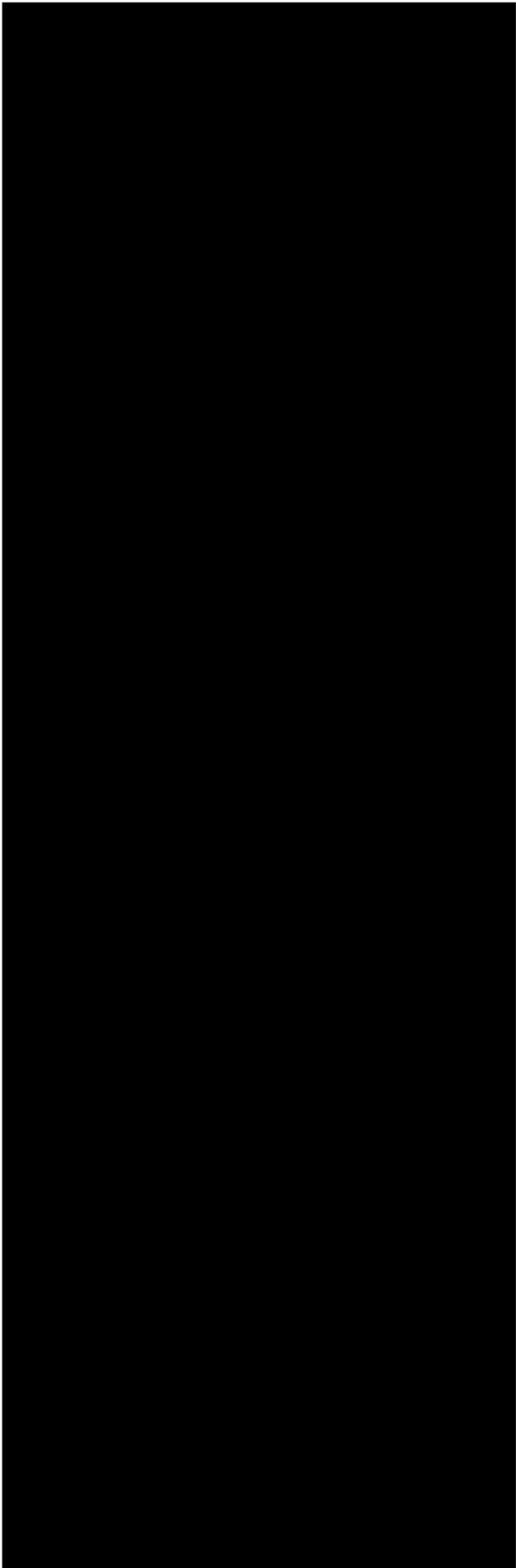
1. "Political Science Methodology and Epistemology"
2. "The Pluralization of Political Science"
3. "The Synchronic and Diachronic Approaches"
4. "The Development of Political Theory and Political Philosophy"
5. "Communications and Political Science"
6. "Policy Sciences and Beyond"
7. "Globalization and Gender"
8. "The Institutionalization of Comparative Research"

SUB-FIELD SECTIONS

1. Political Philosophy and Thought
2. Political Theory
3. International Political Economy
4. International Security Issues
5. Formal Models of International Politics
6. Comparative National Institutions
7. Comparative National Political Processes
8. Comparative Political Attitudes and Participation
9. Comparative Sub-National Studies
10. Comparative Public Administration and Policy

会員の異動

(アイウエオ順)



関連学会の研究会開催予定

日本国際政治学会秋期研究大会 10月24～25日
日本法政学会総会及び研究会 11月23日
アジア政経学会全国大会 11月14～15日
日本平和学会秋期大会 東京にて11月中旬、詳細未定

会費の納入についてのお願い

新年度のはじまりにあたって、1987年度の会費(3,500円)を同封の振替用紙(払込通知票)にて郵便局からお送り頂くようお願い致します。当事務局では事務局作業の省力化を図るため、コンピュータ化を進めておりますが、その結果、振替用紙に会員の皆様の住所・氏名・振込金額等を記入させて頂くことに致しました。変更等がございました場合には、ご面倒でも訂正して頂ければ、幸いと存じます。

また、本年は理事選挙の年です。学会規約第8条、理事選出規定第2条、及び本号記載の理事会記録「会費未納者について」に述べられております理事会確認事項により、2年度分以上の会費未納者は会員資格を失うこととなります。その場合には、選挙の投票用紙や今後のご案内をお送りすることができません。会費を滞納されませんよう、お願い申し上げます。また、郵便振替の払込票は領収書の代わりとなりますので最低1年間は保存しておいて下さい。

なお、会費の納入については、研究会当日にも受付にてお取り扱い致しますが、事務局作業の省力化のため、なるべく振替用紙にてお支払い下さいますよう、お願い致します。

1987年5月25日

発行 日本政治学事務局

成 沢 光

〒102 東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学80年館武藤研究室内

TEL 03(264)9729 直通

郵便振替番号 東京0-84250

加入者名 日本政治学会